

横浜市立万騎が原中学校 学校だより



桐の花

令和5年

2月27日

校長 中村 雅一

横浜市旭区万騎が原 31 TEL 045-391-5514 FAX 045-391-5537

URL <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/jhs/makigahara/index.cfm>

「記録を残すこと—忘却と記憶をめぐる—」

校長 中村 雅一

「忘却」は「ぼうきやく」と読みます。意味は、「忘れ去ること」「すっかり忘れてしまうこと」です。還暦（60歳）を過ぎた私は、ふと、人や物の名前が出てこないことがしばしばありますが、これは仕方がないことと受け入れるしかありません。しかし、昨今、様々なニュースが報道され、一時は、お茶の間をにぎわしますが、それが次から次へと入れ代わり立ち代わり報道された後、しばらくすると過去の出来事として忘れられていくのはどこか釈然としません。

元首相秘書官の性的少数者（LGBTQ）への差別発言、統一教会と政治の問題、東京オリンピック汚職事件、ミャンマーの軍事クーデター、など、数週間、数か月単位で、次の事件へと話題や関心が移っていきます。ニュースはネットで一瞬にして広がり、読み手はリアルタイムで感想をつぶやき、正義の大ナタをふるって発散、「いいね」も押され、大騒ぎした後は、次の話題に移っていきます。不安や不満が発散できればいいのでしょうか。一つの事件や出来事を時間をかけて分析し、その意味を解説して、後世に活かしていこうという姿勢は微塵もないかのようです。大騒ぎしては、また忘れられてしまうことの繰り返しです。

コロナの問題でさえ、結局のところ、空気感染するのかしないのか、マスクは必要ないことの科学的エビデンスはどこにあるのかという疑問は残ったまま、今後、5類となって予防も感染も自己責任とされていくことは、どこか腑に落ちません。開戦からちょうど一年になるウクライナ戦争も戦況を伝えることはあっても、停戦に向けた動きを起こすまでの役割を報道が果たしているのか疑問です。

国内に目を向ければ、相模原障がい者施設殺傷事件、オウム事件、秋葉原通り魔事件など、様々な重大事件が風化しつつあるのではと憂うつな気持ちになります。加えて、今回、1997年に起きた神戸児童連続殺傷事件の裁判記録が破棄されていたことがわかりました。そのほかにも、社会の注目を集めた少年事件の記録が各地の家庭裁判所で破棄されていました。こうした裁判記録の破棄は、被害者やその遺族はもちろん、社会にとっても大きな損失のはずです。再発防止に向けた検証の可能性も社会から奪ったといえます。記録を読み返せば、どういう措置を取れば同様の犯罪を防ぐことができるのかななどを、将来にわたって検証することも可能だったはずですが、しかし、記録が失われればそれもできません。

「記憶」を失わないためには、「記録」が残されなければならないことは言うまでもありません。人は何かを書き残しても、そのことを忘れてしまうかもしれませんが、「記録」は残る訳ですから完全な「忘却」にはなりません。裏を返すと「記録」が残されなければ、完全な「忘却」が起きるということでもあります。

今月の6日、トルコ南東部のシリアとの国境付近を震源とするマグニチュード7.8の大地震が発生しました。厳冬期の中で、多数の死傷者が報告されており、強い余震による建物の倒壊を恐れ、雪の中で過ごしている被災者も少なくないといえます。日本もいち早く支援に乗り出しているようですが、その日本が今から12年前に東日本大震災に見舞われたとき、トルコは速やかに32名の救助隊を派遣してくれました。寒い被災地でのトルコの支援活動は震災直後から約3週間にわたり、これは支援してくれた国々の中で最長だったそうです。

トルコの日本に対する熱い支援はこれだけではありません。さらにさかのぼること、今から38年前の1985年、イラン・イラク戦争のさなか、イラクのフセイン大統領（当時）が「イラン上空を飛ぶ飛行機のすべて

を48時間後に撃ち落とす」と宣言したときのことです。各国政府は救援機をイランに派遣し、自国民を次々と救出していく中で、日本だけが憲法上の問題で自衛隊機が派遣できず、また日本航空も安全上の理由で飛行できないとのことで、216名の日本人がイランのテヘラン空港に取り残されました。タイムリミットがぎりぎりになり、そこに2機の救出機が到着しました。それはトルコ航空の飛行機でした。タイムリミットのわずか1時間前、日本人216名全員がイランを脱出することに成功しました。何と、当時テヘランには多くのトルコ人も在住していましたが、航空機を日本人に提供し、トルコ人は陸路で避難したそうです。本来なら、自国民よりも外国人の救助を優先すれば、国内で当然非難が起こるものですが、「エルトゥールル号事件」への恩返しということで、トルコでの非難は起こらなかったということです。実は、日本政府もマスコミも当初は、なぜトルコの航空機が来てくれたのかわからずにいたようです。後に、当時の駐日トルコ大使が次のように語りました。「エルトゥールル号の事故に際して、日本人がしてくださった献身的な救助活動を、今もトルコの人たちは忘れていません。私も小学生の頃、歴史の教科書で学びました。トルコでは子どもたちでさえ、エルトゥールル号の事を知っています。今の日本人が知らないだけです。それで、テヘランで困っている日本人を助けようと、トルコ航空機が飛んだのです。」

さて、トルコが日本への恩返しという、「エルトゥールル号事件」とはどんな事件だったのでしょうか。事件が起こったのは、明治時代の中期の1890年。トルコは当時、オスマン帝国で、多くの特使を乗せた船を日本に派遣してき、その帰り道、台風にあい和歌山県沖で座礁、沈没してしまったのが軍艦エルトゥールル号でした。このとき、串本町近隣の住民が、懸命の捜査や救助、献身的な介護にあたり、587名の命は犠牲となりましたが、69名は無事救助することができました。また、全国からの義援金も寄せられ、生存者は日本の巡洋艦でトルコに送還されています。今から130年以上経過した今日でも、串本町には亡くなった犠牲者のための慰霊碑があり、5年ごとに地元の人によって追悼式典が行われています。また、このことはトルコの教科書でも紹介されているようです。(2015年に日本とトルコ合作の映画「海難1890」が両国で上映され、日本アカデミー賞で10部門を獲得しています。)

この1890年のエルトゥールル号の事故から95年経過した1985年、トルコはエルトゥールル号遭難・救助の恩を忘れずにいて、先の日本人216名のイランからの救出劇につながったのです。たいへんドラマティックな話であり、史実を後世に語り継ぐために、地元有志によって、遺体が埋葬された遭難海域を見下ろす地に、「慰霊碑」を建てて記録を残し、その後も慰霊の祭典を行っていること、それをトルコでは教科書にも掲載していることの意味は大きいのだと思います。

記録や記憶の有無が明暗を分けることがあります。東日本大震災のとき、過去の災害を覚えていて助かった地域と、忘れ去られて被害が出た地域がありました。同じ被害を繰り返さないためには過去の経験を生かし伝承していく必要があるのだと思います。ここに過去の災害を振り返る意味があるのでしょう。災害伝承を研究している高橋和雄名誉教授はこう述べています。「私たちの先人は『同じ被害を繰り返してはいかん』という思いで、石碑を建てるなどの取組をしてきました。しかし、こうした過去の教訓を生かすも生かさぬも今を生きる私たち次第なんです。私たちがしっかり評価していかないと忘れ去られていきます。先人が残した石碑などを道路工事のときに隅に移しているのが私たちの今までやってきたことですから、それをしっかり掘り起こしてあげることが大事です。」

私たちが目にする世の中の出来事の背景には、様々な因果関係が複雑にからみ合っています。歴史を学ぶ意義は、その出来事や社会の複雑なシステムを理解し、それを今の自分の生き方において、自分の判断や決断のベースとして、自分自身の成長に結びつけることにあるのだと思います。今という現在とこれからの未来をより良く生きていくために、歴史を「忘却の彼方へ」押しやることなく、「記憶」に残すためにも「記録」は必要不可欠であり、それを忘れてはなりません。

(令和5年 2月16日)

「権力に対する人間の闘いとは、忘却に対する記憶の闘いにほかならない」

＜チェコスロバキア(当時)の作家、ミラン・グンデラの言葉＞

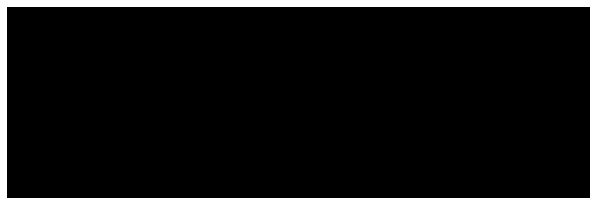
書 初 め

1月11日（水）～19日（金）まで、書初めの展示を行いました。

教室に掲示された書初めのうち数点には金、銀、銅の賞が付きまして。入賞した皆さんおめでとうございます。賞がつかなかった作品からも、新年へ前向きな思いが十分に伝わってきました。

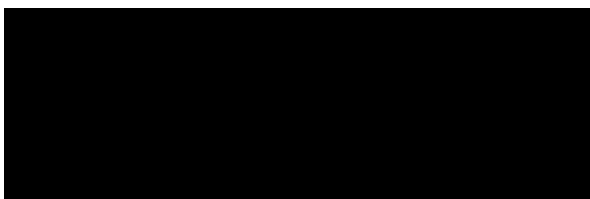
1年生の部

金 賞
銀 賞
銅 賞



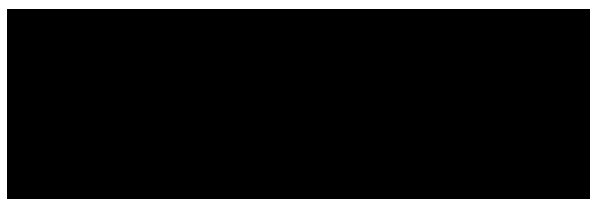
2年生の部

金 賞
銀 賞
銅 賞



3年生の部

金賞（書写展）
銀 賞
銅 賞



横浜 FC と吹奏楽部のコラボ

2月18日の土曜日14：00から、ニッパツ三ツ沢競技場では横浜 FC 対名古屋グランパスのJ2リーグの試合が行われました。

この日は、試合開始に先駆けて、万騎が原中学校の吹奏楽部による演奏が行われました。絶好のサッカー日和、蒼い空の下に鳴り響くプラスバンドの音。盛り上げる部員と観客。演奏のあとはマスコットキャラクターとハイタッチ。様々な名シーンを彩ってくれました。吹奏楽部の皆さん、見事な演奏をありがとうございます。



3月の予定をお知らせします

※予定ですので、感染の状況等により大幅に変更になる場合もあります。

| 日 | 曜 | 学校行事など | 昼食 | 日 | 曜 | 学校行事など | 昼食 | |
|----|---|---|----------|----|----|-----------|----|--|
| 1 | 水 | | ○ 3年× | 17 | 金 | 1年球技大会 | × | |
| 2 | 木 | | ○ 3年× | 18 | 土 | | | |
| 3 | 金 | 卒業式予行練習 | ○ 3年× | 19 | 日 | | | |
| 4 | 土 | | | 20 | 月 | | × | |
| 5 | 日 | | | 21 | 火 | 春分の日 | | |
| 6 | 月 | 3年生を送る会 | ○ 3年× | 22 | 水 | | × | |
| 7 | 火 | 前日準備 | △ | 23 | 木 | 大掃除 | × | |
| 8 | 水 | 卒業証書授与式 | × | 24 | 金 | 修了式 離任式 | × | |
| 9 | 木 | | × | 25 | 土 | 新入生ジャージ受取 | | |
| 10 | 金 | | × | 26 | 日 | | | |
| 11 | 土 | 7日の昼食は、部活動や委員会によります。 学校給食、いもどりの販売はありません。 | | 27 | 月 | 学年末休業 | | |
| 12 | 日 | | | 28 | 火 | | | |
| 13 | 月 | | | × | 29 | 水 | | |
| 14 | 火 | | | × | 30 | 木 | | |
| 15 | 水 | | | × | 31 | 金 | | |
| 16 | 木 | 2年球技大会 | × | | | | | |

○○●○○○●○○○○●○○○○○●○○○○○○●○○○○○○●○○○○○○●○○○○

3月の学校カウンセラー（小川みなみ）による相談（水曜日）は

3月1日・8日・15日・22日・29日です。

相談予約等は、本校職員または相談室直通電話【（水）のみ391-5891】まで。

○○●○○○●○○○○●○○○○○●○○○○○○●○○○○○○●○○○○○○●○○○○

4月の主な予定

7日（金） 着任式・始業式・入学式

10日（月） 離任式・対面式

14日（金） 授業参観・懇談会

陸上競技部 2023日本室内陸上競技大阪大会 U16の部

女子60m B決勝7位

卒業証書授与式

令和5年3月8日に第62回卒業証書授与式が予定されています。

新型コロナウイルス感染症の対応が緩和される報道もありますが、本校は在籍生徒が多く、一定の距離を確保できないことから、今年度の来賓の方については、地域の代表として連合町内会長様と学校運営協議会の委員の皆様、本校PTA本部役員の皆様のみと致します。なにとぞ、ご理解と御協力をよろしくお願いいたします。